

はじめに

神田翔平・高瀬瑠菜

今回、このような形でグループの記事をまとめることとなったが、みな様々な問題について調べている。ここではそれらを軽く紹介していきたいと思う。

まずは高齢者の生活保護の実情からこれからの日本社会を考えている記事である。これは日本の高齢者の生活保護の支給問題からこれからの日本についてどのような政策が必要なのか、また、「孤独死」や生活保護を受給できない高齢者が働き続けた場合に若者の雇用はどうなるのかなど雇用の問題も絡めつつ述べている。

また次の記事はフランスの移民を例にして多文化社会においてどのような課題が生まれ、その原因になっているのはなんであるのかについて考察している記事である。

次に宗教と紛争について述べた記事を紹介したいと思う。これはガザ紛争に着目し、その中でも子供の死傷者が多いということから、そのような子たちを救うためにはどのようなことが出来るのか。そのような点について述べた記事である。

次は日中の関係性に関する記事である。テロが頻発する現代において日中で協力していける可能性はあるのか、これから国や経済が発展していく中で利益を共有していくことはできるのか、このような日中の共存の可能性について述べた記事である。

次は沖縄の米軍基地について着目している記事である。辺野古への基地移設を通じて沖縄県民の土地問題や環境問題、基地の影響はどのような点にあるのか、日本政府と沖縄県との協力は可能なのか、また日米安全保障条約を通じた見直しを行うことで基地に関するこれからはどう変化していくのか、など基地関係をめぐる問題について述べている。

最後はこれに関連して日本の安全保障体制について述べている記事である。集団的自衛権についての問題が深刻化する中で一市民としてどのような視点でこの問題に向き合っていく必要があるのか、また視点を変えてもしも自分が政治をおこなう立場であったならばこの問題にどうやって対処していくべきであったのか、などについて述べた内容である。

今回の記事内容は上記のようになっている。このように各自が記事をまとめていくと各自が異なる問題について述べているように思われるが、そのなかでひとつの共通点を見つけることが出来る。それは市民など政治を動かすうえでの弱い立場の人達を守るための対策または政策をどのようにしていくかである。市民の生活は政策に大きく影響を受けるものである。そのため政策がどのようにあるべきなのか、それを考えることがこれからの日本の社会を考えるうえで必要なことになってくると思われる。国を動かしていくなかで何に重点を置いて政治をおこなうべきなのか、国際化が進む現代のなかで他国との関係性も考えつつ政治をおこなっていく中で市民と政府の考え方の間にはギャップが生まれてきてしまうことも大いに考えられる。そのギャップを解消して政治をおこなうことは可能かどうかという点も考えつつこれらの記事を読んでもらいたいと思う。